

養蚕改良高山社と競進社

平成 26 年 (2014) に富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録された。構成する資産の一つに「高山社跡」がある。この高山社は群馬県藤岡市にあった養蚕改良高山社で、本市にあった競進社と同じ養蚕改良結社であった。



高山社跡 (群馬県藤岡市)



競進社模範蚕室 (埼玉県本庄市)

高山長五郎は文政 13 年 (1830) に上野国緑埜郡高山村 (現藤岡市) の旧家高山家に生まれた。嘉永元年 (1848) に家督を相続し、以後、高山村名主や戸長、連合戸長を勤めた。公務を勤める傍らこれからの産業は養蚕業が重要な産業になると確信し、安政 2 年 (1855) より養蚕を開始したという。しかしながら数年失敗が続き、安政 4 年 (1857) に父の隠居屋敷二階で実弟の巳之助 (後の木村九蔵) の飼った蚕が大成功したのに驚き、巳之助を自宅に呼び戻し、以後兄弟協力して蚕の飼育に没頭したという。

長五郎は火力を用いて温度と湿度を調整し、それまで各地で行われていた「清涼育」や「温暖育」の良い点を伸ばし、欠点を克服する新たな飼育法の「清温育」を確立したのである。ほぼ同時期に弟の木村九蔵も「一派温暖育」という飼育法を確立した。

明治 6 年 (1873) に長五郎は周辺の若者たちと協力して養蚕改良高山組を結成して組長となった。そして長五郎らの推奨する飼育法の清温育を学ぼうとするものが増加し、明治 17 年 (1884) には組織を拡大整備して、養蚕改良高山社とした。



高山社と高山社蚕業学校全景



高山長五郎の墓 (藤岡市高山 興禅院)

高山社は交通の便の良い藤岡町に事務所と伝習所の設置を計画して、明治 20 年 (1887) に開設した。しかしながら移転が終了する直前の明治 19 年 (1886) 12 月、長五郎はこの世を去った。56 歳であった。長五郎は亡くなる直前に弟の九蔵を呼び、跡継ぎの武十郎の後見を託している。

長五郎亡き後、意志を継いだ町田菊次郎が高山社二代目社長に就任し高山社の活動はさらに高まり、社員の増加、分教場の開設、全国への教授員の派遣を実施し、競進社と共に日本を代表する養蚕改良結社に成長した。

競進社は明治 30 年 (1897) に伝習所を蚕業講究所に改め、32 年には競進社蚕業学校を開設した。高山社も競進社と同様に、実技の伝習教育にとどまらず学科科目を導入して本格的な学校教育を目指した。明治 32 年 (1899) に学理講習所を設置し、同年に交付された実業学校令に合わせて政府の認可を受け、明治 34 年 (1901) に甲種高山社蚕業学校として開校した。

